

(一社) 日本臨床耳鼻咽喉科医会 令和4・5 年度第8回理事会 摘録

場所： 日本臨床耳鼻咽喉科医会 会議室 (東京・医会会議室)

日時： 令和5年12月24日(日) 13:00-16:00

出席者 会長：福與和正 副会長：川嵯良明、野上兼一郎、藤岡治
理事：朝比奈紀彦、麻生伸、阿部博章、石谷保夫、香取幸夫、小泉達朗、
杉山貴志子、高原哲夫、中澤宏、永田博史、守本倫子、吉村理
監事：浅井英世、岩佐英之 (計 18 名) 事務局：井出あゆみ、平間妙子

会長挨拶

師走も押し迫る中、本日は理事会にお集まりいただきありがとうございます。
報告事項はその他を入れて 11 題でさらに重要な協議事項もあります。担当の理事からは追加と重要なポイントを挙げていただきたいと思います。来年5月で2年の任期も終了いたします。理事の方々の担当分野で残すことなく仕事を済ませていただくようお願いいたします。

報告事項

1. 庶務委員会 (小泉理事)

(1) 令和4・5年度第7回理事会議事録について報告した。

(2) 入会・退会・異動、11/30までの会員数について

入会129名・退会及び異動226名で、令和5年11月30日現在、A会員4245名・B会員2857名・合計7102名であった。

(3) 第3回庶務員会議事録について報告した。

2. 広報・渉外委員会 (中澤理事)

(1) 第4回広報・渉外委員会 (12月11日) を開催した。

①ホームページの充実を図る目的で会員に意見を求める為、各医会長宛にメールを出した。

②補聴器適正選択と使用に関して患者への啓蒙を試みる。

③学校保健に関しても学会と協力して医会からも発信する方向になった。

3. 経理・会員福祉委員会 (高原理事)

(1) 令和5年11月末までの会計報告を行った。

4. 地域医療委員会 (川島理事)

(1) 令和4・5年度第5回地域医療委員会について報告した。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外来診療アンケートについて

(3) 耳鼻咽喉科医療の拡大に向けた検討について報告した。

①在宅医療・訪問医療への積極的参入についての検討

②軽度嚥下障害患者診療の積極的勧奨

(4) 災害医療の会員への啓発についての検討を行った。

(5) 救急医療など地域医療の動向についての調査研究。

(6) 耳鼻咽喉科外来医療経営基礎調査についての検討。

5. 保険医療委員会（杉山理事）

(1) 医会単独の委員会を開催した。

(2) 第7、8、9回（合同）委員会を開催した。

(3) 薬価を下げすぎるとメーカーが製造安定供給の継続が困難になるため、薬価を下げすぎないように求める流れがある。

(4) 今後日耳鼻と合同で各種全国会議を行う。来年1月は全国会議・ワークショップ、3月末には令和6年度診療報酬改定伝達会議を行う。保険点数改定は令和6年度より3月中に発出されるが、運用は令和6年度より6月1日からとなる。

6. 学校保健委員会（朝比奈理事）

令和4・5年度第6回・第7回学校保健委員会（日耳鼻・臨床耳鼻科医会合同）を開催した
来年1月28日品川で全国代表者会議と日耳鼻との合同で学校保健委員会を開催する

(1) 協議事項

①耳鼻咽喉科学校健診のあり方、特に所見・疾患名について追加・削除が必要か、例えば鼓膜観察ができない場合に耳垢栓塞とは別の病名を作るかどうかを検討する。

②健診の事後処置について、保健調査票の有用性について

③耳鼻咽喉科健診マニュアル改定の必要性について

(2) 報告事項

①耳鼻咽喉科学校医配置率は小学校：80.8%、中学校：78.5%

②耳鼻咽喉科医による学校健診実施率は小学校：89.5%、中学校：86.8%

③更に詳細な調査を行う一方で、学校医未配置校への対応法について各地域に指南していくことが今後の課題である。耳鼻咽喉科医による健診は10～13%で行われておらず、実施率は地域差が大きい状況である。この実態を日本医師会に伝える。

7. 福祉医療委員会（麻生理事）

（成人老年委員会報告）

(1) 第49回全国身体障害者福祉医療講習会・第29回補聴器キーパーソン全国会議について、令和6年6月15日（土）、16日（日）昭和大学上條記念館において開催となった。

次年度の第50回全国身体障害者福祉医療講習会・第30回補聴器キーパーソン全国会議については、令和7年6月21日（土）、22日（日）、東京開催とすることを確認した。

(2) 第4回福祉医療・成人老年委員会（8月31日）

令和5年度福祉医療・成人老年委員全国会議について、「難聴と認知症」、「そしゃく・嚥下障害」の2演題が決まった。

(3) 令和5年度厚労省老人保健健康増進事業 / 難聴高齢者の早期発見・早期介入等に向けた関係者の連携に関する調査研究事業 第1回検討委員会（9月13日）（麻生出席）

調査事業計画とその内容について意見交換した

(4) 難聴対策推進議員連盟主催セミナー（10月13日）（麻生出席）

(5) 難聴対策推進議員連盟第18回総会（11月28日）（福與、藤岡、麻生出席）

(6) 令和5年度厚労省老人保健健康増進事業 / 難聴高齢者の早期発見・早期介入等に向けた関係者の連携に関する調査研究事業 第2回検討委員会（12月22日）（麻生出席）

(7) メール協議

①日耳鼻HPの補聴器適合に関する診療情報提供書（2018）について提供書の発行に際して、自由診療として診断書発行料金を算定することに関した変更を行った。

②補聴器相談医の委嘱を申請するためには「講義と実技講習を一年以内に受講した場合のみ認定する」という案について協議されて承認された。（令和5年12月）

（乳幼児委員会報告）

(8) 第6回福祉医療・乳幼児委員会（9月7日）（麻生、兵庫出席）。

①令和5年度の全国会議（令和6年1月開催）の式次第について協議された。

②NHS および1～6歳難聴児の全国調査の集計状況について報告された。

③次年度の診療報酬改定の要望の中に「人工内耳スピーチプロセッサを医師が認めれば5年ごとに新規のものに無償で取り換えが可能」という意見書を日耳鼻から厚労省に提出する件につき、意見交換を行った。

(9) 第7回福祉医療乳幼児委員会（10月12日）（麻生、兵庫出席）。

①令和5年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議（1月28日）について協議した。

②2022年新生児聴覚スクリーニング後および1歳～6歳の難聴児に関する実態調査の回収状況、および聴力検査機関のリストの改定について協議した。

③3歳児健診の説明動画の内容について議論された。

(10) 小児難聴相談医制度のキックオフミーティング（11月3日）（麻生出席）。

小児難聴相談医制度について、耳科学会、聴覚医学会などからの委員を含めて、方針を話し合った。

(11) 第8回福祉医療乳幼児委員会（12月7日）（麻生、兵庫出席）。

①令和5年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議（1月28日）について、各演題の司会・演者を最終確認した。

②令和5年度事業報告（案）および令和6年度事業計画・予算（案）について、今年度の事業報告について確認、承認された。

③小児難聴相談医について、各県にキーパーソンを作って育成を図る方針であることが報告された。

(12) 超党派成育基本法推進議員連盟第22回総会（12月12日）（福與、麻生出席）

超党派国会議員、日本医師会、日本小児科学会、日本小児科医会、日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、ほか関連各学会多数の参加者があった。

(13) 小児難聴相談医WGの第2回検討会（12月21日）（麻生出席）。

小児難聴相談医テキストを作成することとし、その内容について意見交換した。

8. 勤務医委員会（永田理事）

(1) 第4回勤務医委員会を開催した。（9月19日）

①勤務医セカンドキャリアの参考になる情報を発信する。

②2名の勤務医の先生にエッセイを書いていただく事とした。1人は三井記念病院特任顧問の奥野妙子先生、もう1人は長年千葉県がんセンターの部長を務められた佐々木慶太先生である。

③秋季大会医会セッションのテーマの一つを、勤務医向けの内容にしてもらうよう学術委員会に依頼する事とし、そのテーマについて候補を5題学術委員会に提案した。

9. 学術委員会（吉村理事）

(1) 第4回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションを開催した。（11月19日）

現地参加はセッション1が95名、セッション2が85名であった。

(2) 学術委員会を開催した。(12月5日)

10月23日より公募を行った第5回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションのテーマ案について検討した。最終選定は臨床医会理事会に一任となった。

(3) 旧嚥下WGの世良先生に作成して頂いたアンケート案をベースに最終案を作成する事とした。

(4) 「嚥下障害診療マニュアル改訂版」PDFを医会ホームページに掲載した。

今回の改訂では嚥下機能に対応した食形態の表「嚥下食コードと食形態の関係」を追加した。

10. 会報委員会 (石谷理事)

(1) 「日本臨床耳鼻咽喉科医会会報」第4巻第1号作成状況について説明した。資料070解説「LPRD (咽喉頭逆流症) ワーキンググループからの発信」の著者名を「渡邊雄介 (LPRD WG 代表)」に変更することとした。

(2) 次号から勤務医のページを作り、発刊は3月15日を予定している。

(3) 広告掲載申込状況について報告した。

11. 医事問題委員会 (阿部理事)

(1) 医事問題委員会を10月26日に開催した。

(2) WSおよび全国会議での領域講習の単位登録に関して、従来は個別に入退出を記録していたものを会議の最初と最後だけチェックすることとなった。

(3) 現在、アンケート調査のシステムの更新を検討中である。

12. その他

(1) 「耳鼻咽喉科頭頸部外科医療 未来プラン」のHP掲載について (福與会長)

日耳鼻会報新年号に理事長の新年の挨拶と日耳鼻HPに「耳鼻咽喉科頭頸部外科医療 未来プラン」が掲載される予定となっているが、臨床耳鼻科医会のHPにも同時に掲載することとした。

協議事項

1. 会員資格の見直しのための定款改正について (小泉理事)

従来のA会員・B会員に加え、非日耳鼻会員の医会残留を認めるC会員と耳鼻科医以外の医会入会を認めるD会員の 신설については前理事会で承認済みであるが、その定款変更案を提示し協議を行った。

2. 次期年会費の値上げ(案) について (高原理事)

A会員7000円、B会員1000円の値上げ、C、D会員は年会費2000円として値上げ案を進めていくことを理事会決定とした。

3. 弔慰規程(案) について (高原理事)

定款には規定されていないが、内規の追加として次回代議員会で報告義務がある。

慶事については「その都度理事会にて協議する。」(文面については今後検討する)との一文を加え、弔慰規程のみとすることとした。

4. 第5回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションのテーマについて (吉村理事)

令和5年12月1日、九州ブロック主催京都で開催される第5回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションのテーマ案につき公募したところ、多数のテーマ案が協議資料4.2のごとく集まった。本日は学術委員会の意

見も参考にテーマ 2 題を最終決定して頂きたい。

- ・耳鼻咽喉科で取り組みが遅れている「在宅医療への参画」をテーマにしてはいかがか。(藤岡)
- ・医業継承問題、社会状況の変化とともに新規開業方法も変化してきており、将来的な耳鼻咽喉科経営を考える転機になるなどのテーマはどうか。(杉山)
- ・NDB データ) からみる耳鼻咽喉科外来診療に関連して、過去のレセプト分析を見ると県単位で行われているのですが、平均診療実日数で選別して分析してみると違ったものが見えるのではないのでしょうか。(阿部)

5. 役員選任の通知について (藤岡副会長)

次年度は選挙選出理事を 1 名増員して、負担の大きい福祉医療委員会の担当理事を「成年老年委員会」担当と「乳幼児委員会」担当の 2 名に分ける事が検討された。またこれにより理事の人数が偶数となる場合、広報・渉外も「広報委員会」と「渉外委員会」に分割する事も提案された。

6. 耳鼻咽喉科医薬品(後発品)の安定供給に関する依頼について (福與会長)

標記に関する要望書を厚労大臣に提出することとした。

7. 令和6度事業計画(案)および令和6年度収支予算(案)について (福與会長)

令和 6 度事業計画(案)の作成にあたって、各担当理事より来年 1 月までに素案を提出する事とした。

8. 令和5度事業報告および引き継ぎ事項作成について (福與会長)

令和 5 度事業報告(案)の作成にあたって、各担当理事より来年 2 月までに素案を提出する事とした。

9. その他

役員選任(ブロック推薦理事)について

現時点では選出方法については決まった方法はない。理事会の中での業務継続のことも考慮する必要があり、現状追認の流れである。